

令和 4 年産米の取り組み の基本的考え方（案）

令和 3 年 12 月 3 日
福島県水田農業産地
づくり対策等推進会議

(このページは白紙です。)

I. 水田農業をめぐる情勢

1. 令和2年産米価格動向（令和3年10月末）

- 令和2年産米において中通りコシヒカリ・ひとめぼれ・天のつぶは10%以上下落。
- 一方、会津コシヒカリの下落率は小さいものの契約・販売数量は前年産を下回り推移。
- 加重平均でみると、令和元年産対比で概ね▲1,600円／60kg程度下落している状況。
- この水準では、収入は「ナラシ対策」補てんを見込んでも全算入生産費を下回る結果。

単位：円／60kg、%

産地	銘柄	2年産	元年産	2-元	2/元
福島	中通りコシヒカリ	13,276	15,369	▲ 2,093	86
	会津コシヒカリ	14,899	15,392	▲ 493	97
	浜通りコシヒカリ	13,603	14,974	▲ 1,371	91
	ひとめぼれ	13,048	14,913	▲ 1,865	87
	天のつぶ	12,531	14,479	▲ 1,948	87
全国	通年	14,522	15,716	▲ 1,194	92
(参考)新潟	コシヒカリ一般	16,526	17,391	▲ 865	95

注) 包装込・税込価格

単位：%、円／60kg

区分	銘柄	地域等	ウェイト	2年産	元年産	2-元	2/元	
福島県	コシヒカリ	中通り	35	54	13,276	15,369	▲ 2,093	86
		浜通り	4	7	13,603	14,974	▲ 1,371	91
		会津	25	39	14,899	15,392	▲ 493	97
		計	64	100	13,931	15,351	▲ 1,420	91
	ひとめぼれ	22		13,048	14,913	▲ 1,865	87	
	天のつぶ	14		12,531	14,479	▲ 1,948	87	
	計	100		13,540	15,132	▲ 1,592	89	
全国				14,522	15,716	▲ 1,194	92	

区分	単位	金額		
		2年産	元年産	2-元
全算入生産費	円／10a	A	120,376	114,370
物貯費	円／10a	B	75,656	69,655
販売価格	円／60kg	C	13,540	15,132
流通経費	円／60kg	D	2,000	2,000
単収	kg／10a	E	544	540
生産者手取り	円／10a	F=(C-D)*E/60	104,629	118,188
「ナラシ」対策補てん	円／10a	G	4,577	0
収入計	円／10a	H=F+G	109,206	118,188
生産費との差	円／10a	I=H-A	▲ 11,170	3,818
物貯費との差	円／10a	J=H-B	33,550	48,533

注) 令和2年産米単収は、1.85mm以上(12月6日公表)で試算。

2. 令和3年産米価格動向（令和3年10月末）

- 令和3年10月末ではコシヒカリ（3地区）・ひとめぼれ・天のつぶの全銘柄価格が公表。
- 天のつぶ以外は令和2年産米対比10%程度以上下落、天のつぶは集荷数量減が影響と想定。
- 一定の前提での加重平均でみると、全体で概ね▲1,600円／60kg程度下落している状況。
- この価格水準では、収入は「ナラシ対策」補てんを見込んでも全算入生産費を下回る結果。

単位:円/60kg、%

産地	銘柄	3年産	2年産	3年-2年	3年/2年
福島	中通りコシヒカリ	11,617	13,276	▲1,659	88
	会津コシヒカリ	12,612	14,899	▲2,287	85
	浜通りコシヒカリ	11,682	13,603	▲1,921	86
	ひとめぼれ	11,235	13,048	▲1,813	86
	天のつぶ	12,447	12,531	▲84	99
全国	通年	13,144	14,522	▲1,378	91
(参考)新潟	コシヒカリ一般	15,689	16,526	▲837	95

注) 包装込・税込価格

単位: %、円／60kg

区分	銘柄	地域等	ウェイト	3年産	2年産	3年-2年	3年/2年	
福島県	コシヒカリ	中通り	35	54	11,617	13,276	▲1,659	88
		浜通り	4	7	11,682	13,603	▲1,921	86
		会津	25	39	12,612	14,899	▲2,287	85
		計	64	100	12,009	13,931	▲1,922	86
	ひとめぼれ	22		11,235	13,048	▲1,813	86	
	天のつぶ	14		12,447	12,531	▲84	99	
	計	100		11,899	13,540	▲1,641	88	
全国				13,144	14,522	▲1,378	91	

区分	単位	金額		
		3年産	2年産	3年-2年
全算入生産費	円/10a	A	120,376	120,376
物貯費	円/10a	B	75,656	75,656
販売価格	円/60kg	C	11,899	13,540
流通経費	円/60kg	D	2,000	2,000
単収	kg/10a	E	536	544
生産者手取り	円/10a	F=(C-D)*E/60	88,431	104,629
「ナラシ」対策補てん	円/10a	G	17,860	4,577
収入計	円/10a	H=F+G	106,291	109,206
生産費との差	円/10a	I=H-A	▲14,085	▲11,170
物貯費との差	円/10a	J=H-B	30,635	33,550

注) 令和3年産米単収は、1.85mm以上(11月9日公表)で試算。

3. 令和3年米の集荷・契約、民間在庫の動向（令和3年10月）

- 令和3年産米の10月末の全国集荷数量は201万トン（対前年同月比▲2万トン）、契約数量は158万トン（対前年同月比▲12万トン）、販売数量は27万トン（対前年同月比+2万トン）、なお、全国の事前契約数量は131万トン（対前年同月比▲14万トン）。
- 令和3年10月末の民間在庫は、全国で329万トン（対前年同月比+5万トン）とほぼ横ばい、これは例年より1年古米は増加しているものの、令和3年産米主食用米の生産量が▲22万トン減少している影響と想定。

単位:千トン、%

区分	年産	集荷数量	契約数量	販売数量	契約進度	販売進度	契約残数量	販売残数量
福島	3年産	97.80	56.40	3.30	57.67	3.37	41.40	94.50
	2年産	111.40	61.50	5.80	55.21	5.21	49.90	105.60
	比率・差	87.79	91.71	56.90	2.46	▲1.83	▲8.50	▲11.10
全国	3年産	2,006.00	1,582.00	265.00	78.86	13.21	424.00	1,741.00
	2年産	2,027.00	1,702.00	246.00	83.97	12.14	325.00	1,781.00
	比率・差	98.96	92.95	107.72	▲5.10	1.07	99.00	▲40.00

単位:千トン

年産	区分	10月末		全体		
		集荷数量	事前契約	集荷数量	事前契約	事前契約率
令和3年産	全国	2,006	1,306			
	福島	98	52			
令和2年産	全国	2,027	1,444	3,004	1,499	49.9
	福島	111	49	150	48	32.1
3年産-2年産	全国	▲21	▲138			
	福島	▲14	3			

単位:千トン

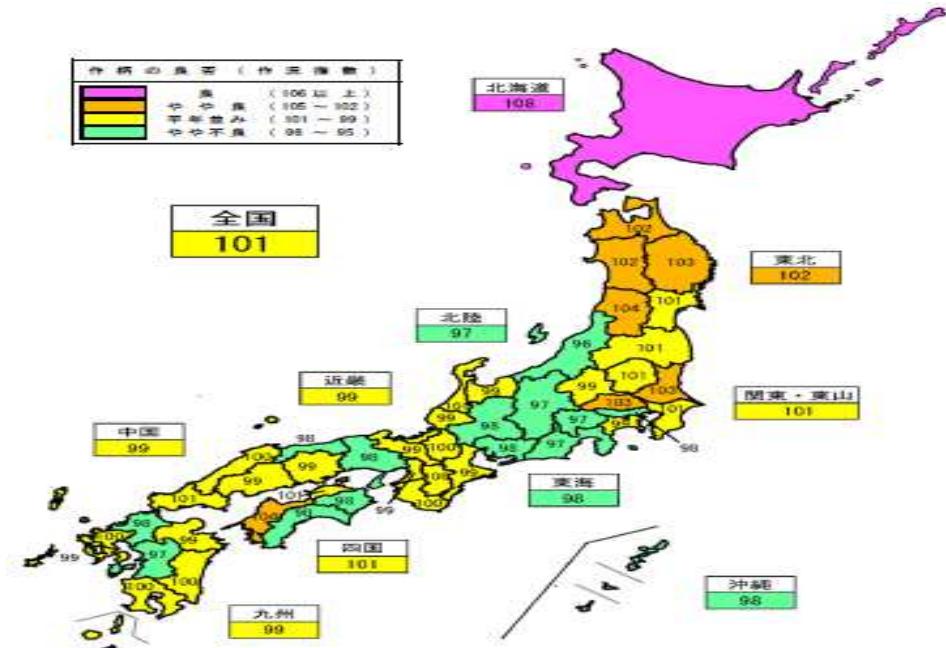
区分	3年10月末	2年10月末	3年-2年
福島	当年産	139	156
	1年古米	56	67
	全体	199	224
全国	当年産	2,560	2,660
	1年古米	640	510
	全体	3,290	3,240
新潟	参考	266	298
	当年産	28	29
	全体	296	327

4. 令和3年産米作付動向と作柄概況（10月25日現在）

- 全国の令和3年産主食用米作付面積は、前年対比▲63千haの減少を見込む。
- 福島の令和3年産主食用米作付面積は54,700haと前年産米対比▲4,500ha減少し、生産数量の目安（面積）削減目標▲3,500haを更に▲1,000ha程度深掘り。
- 令和3年産水稻の10月25日現在における作柄は、北海道は「108」の「良」、東北は「102」の「やや良」、関東・東山は「101」の「平年並み」、その他地域は平年並みからやや不良となり、結果として全国作況は「101」の平年並みと公表。
- これは、6月下旬から7月上旬の日照不足および8月中旬からの低温、日照不足等の影響がみられる地域がある一方、北海道・東北は全もみ数が平年以上に確保され、登熟も順調に推移した結果。

区分	主食用米	戦略作物等							備蓄米		
		加工用米	新規需要米				麦	大豆	その他		
			飼料用米	WCS	米粉用米	輸出用米					
令和3年	130.3	4.8	11.6	4.4	0.8	0.7	10.2	8.5	10.2	51.2	3.6
令和2年	136.6	4.5	7.1	4.3	0.6	0.6	9.8	8.5	10.2	45.6	3.7
3年-2年	▲ 6.3	0.3	4.5	0.1	0.2	0.1	0.4	0.0	0.0	5.6	▲ 0.1

項目	年産		2年産		3年産計画・実績		④-②	④-③	単位:ha			
	計画	実績	計画	8月末見込み	④-②	④-③						
	①	②	③	④								
主食用作付面積	59,000	59,200	55,700	54,700	▲ 4,500	▲ 1,000						
計画面積との差	0	200	0	▲ 1,000	▲ 1,200	▲ 1,000						
①飼料用米	SUM(①⑥)	12,900	11,960	14,955	16,882	4,922	1,927					
②備蓄米	6,000	4,933	7,000	10,038	5,105	3,038						
③加工用米	4,800	5,568	5,600	5,335	▲ 233	▲ 265						
④WCS	500	424	1,000	397	▲ 27	▲ 603						
⑤輸出米	1,100	952	1,200	1,031	79	▲ 169						
⑥その他	100	41	100	38	▲ 3	▲ 62						
全水稻作付面積	71,900	71,200	70,655	71,600	400	945						



(このページは白紙です。)

II. 需給見通し・当面対策・
令和3年度補正予算等

1. 食糧部会における基本指針

- 農林水産省は、令和3年11月19日（金）食糧部会を開催、令和3／4年需要量は702～706万トンとほぼ計画通りの見通し、これは、昨年度との比較ではコロナ禍の影響を織り込み、そのうえで需要は若干回復基調にあるとの見立てによる。
- 令和4／5年需要量はトレンドによる推計から692万トンと見込み、令和5年6月末民間在庫水準を196～200万トンと設定した結果、令和4年産米必要生産量は675万トンとした。
- これは、令和3年産米生産量701万トンと比較し▲26万トン減、96%の水準。なお、農林水産省は「特別枠15万トン」の効果が出れば、民間在庫数量はさらに下振れするとの見方を示している。

単位：万トン

項目	2/26食糧部会	7/29食糧部会	11/19食糧部会	注釈
令和3年6月末民間在庫量	207～212	219	218	
令和3年産主食用米等生産量	693	693	701	
令和3/4年供給量計	900～905	912	919	904
令和3/4年需要量	705	703	702～706	
令和4年6月末民間在庫量	195～200	210	213～217	198～202
令和4年産主食用米等生産量			675	
令和4/5年供給量計			888～892	873～877
令和4/5年需要量			692	
令和5年6月末民間在庫量			196～200	181～185

注）特別枠15万トンを除いた数量。

2. 国の当面対策

- 農林水産省は、①コロナ影響緩和対策特別対策（仮称）、②米穀周年供給・需要拡大支援事業の拡充、
③当面の資金繰り対策を柱とする、当面対策を公表。
- また、（公益法人）米穀安定供給確保支援機構も、27万トンの売り急ぎ防止支援事業を措置。

当面の対応について

令和3年10月12日
農林水産省

（1）コロナ影響緩和特別対策（仮称）

集荷団体と実需者との間での取引が整い、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」に基づき長期計画的な販売に取り組んでいる令和2年産米37万トンのうち、新型コロナウイルス感染症の影響による需要減に相当する15万トンについて、「新たな特別枠」を設けて以下の対策を実施し、販売環境を整備。

- ① 集荷団体が行う長期保管に係る経費に対する支援（10／10）
- ② 集荷団体が行う次の取組に対する支援。
 - ・ 子ども食堂等の生活弱者への提供（10／10）
 - ・ 中食・外食事業者等への販売促進（1／2）

（2）米穀周年供給・需要拡大支援事業の拡充

集荷団体と実需者との間での取引が整い、「米穀周年供給・需要拡大支援事業」に基づき長期計画的な販売に取り組んでいる令和2年産米のうち、（1）の対象以外のものについて、令和3年4月以降の保管料等の1／2相当から3／4相当に支援を拡充（国費及び（公社）米穀安定供給確保支援機構における資金で対応）。

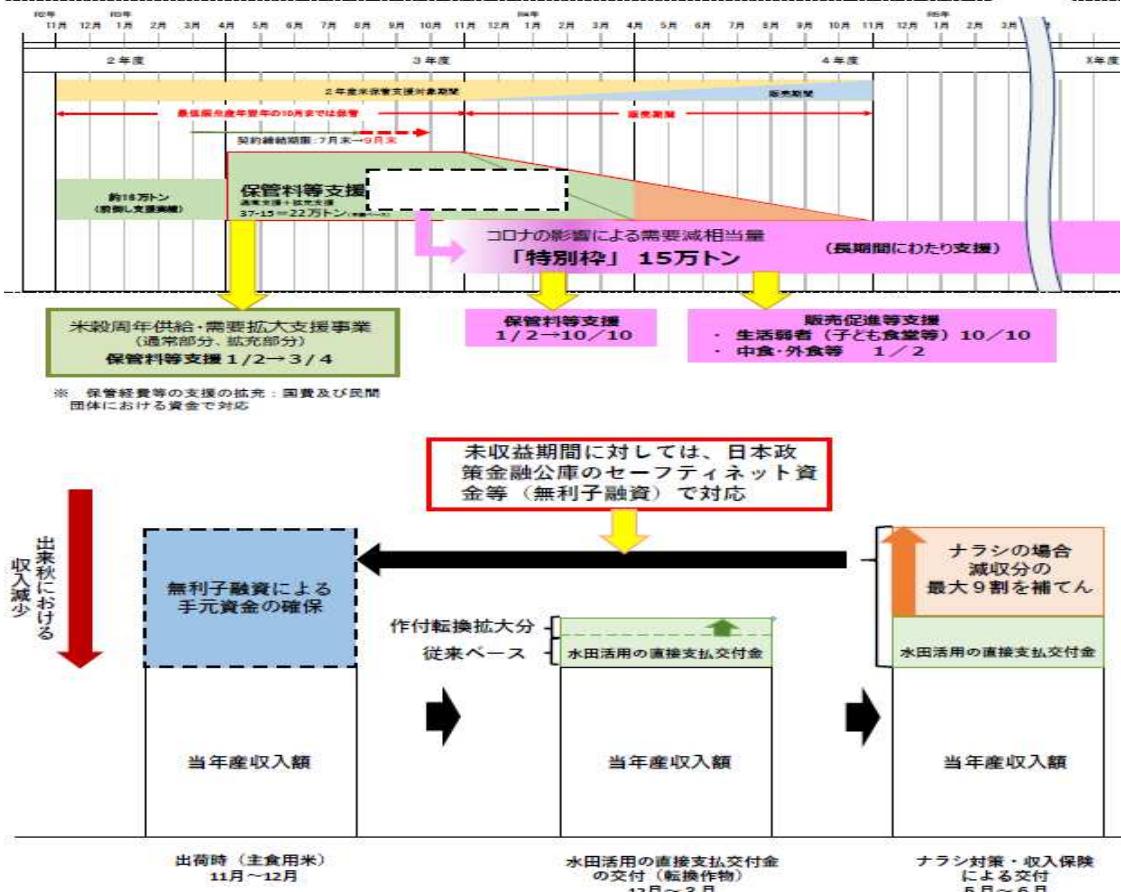
（3）当面の資金繰り対策

- ① 農林漁業セーフティネット資金等の融資の円滑化や実質無利子化。
- ② 既貸付金の償還猶予に係る関係機関への要請。

（4）産地への情報提供

以上の対策について、10月18日（月）に各都道府県の関係者を集めた全国会議を開催し、周知。

【令和2年産米の保管経費等の拡充支援イメージ】



3. 令和3年度補正予算の概要（水田活用予算関係全体像）

- 令和4年度当初予算と令和3年度補正予算(前倒し支援)を合わせ、令和4年産における作付転換支援に対応可能な予算総額を確保。



III. 令和3年産米の取り組み経緯と課題

1. 取り組み経緯等

- 令和3年産米においては、令和元年／2年需要量の減少が実質全国で一番多く、需要に対する在庫率も全国で最も多かったことから、全国の必要生産量の減少率（▲5%減）を上回る令和2年産米実績対比▲3,500ha（▲6%）減の「生産数量の目安（面積）」を設定し、例年より早い11月中旬には全体の大まかな枠組みを地域農業再生協議会に示し、取り組みを開始。
- 同時に、県全体の制度別・用途別作付計画と麦・大豆・そば・高収益作物等の大まかな転換計画（全体で800ha程度）、「天のつぶ」等多収品種への転換方針も提示。
- 生産者推進にあたっては、飼料用米における生産者手取りと主食用米の生産者予想手取りを比較したパンフレット等を作成のうえ取り組みを展開、しかし令和3年5月末の削減見込みは▲2,600ha程度にとどまり、実質6月単月で昨年対比▲4,400haを超える水準まで主食用米の削減が進展。
- これは県・市町村等の独自助成が措置され飼料用米等の生産者手取りは早い段階から十分見通せたものの、6月に入りJA等において出荷契約数量の積み上げと一体となった推進や、経営所得安定対策加入受付がはじまってようやく全体情勢の理解が生産者に浸透した結果と想定。
- また、商系業者は備蓄枠が獲得できなかったことから、例年以上に飼料用米への転換を推進したこと、JAも含め集荷業者として令和2年産米の販売が順調にすすまず、原価割れで販売せざるを得ない状況も発生し、在庫増を回避し主食用米削減の機運が高まったことも大きな要因と想定。
- この結果、主食用米作付け面積は生産数量の目安（面積）を更に▲1,000ha深堀りし、令和2年産米実績対比▲4,500haを達成。

2. 諸課題等

- 加工用米・輸出用米は、早い段階から低価格帯での需要確保を提起し「水田リノベーション事業」も活用し取り組んだが、加工用米・輸出用米とも当初計画の5割未満の取り組みにとどまる結果。
- 特に加工用米については、MA米代替需要も含めての拡大を目指したが、新たな実需者との結び付きがほとんどできない結果。
- 輸出用米については、実需者との協議において数量・銘柄が限定され、計画に見合った大きな数量には至らなかった。
- 大豆等は若干増加したものの、麦については品種構成のミスマッチもあり大きな増加とはならず、全水稻作付面積の削減までには至らなかった。
- 結果的に飼料用米中心の作付転換となり、飼料用米の作付けは大幅に拡大し、前年産の倍以上となつた。特に、例年需給調整の取り組みに苦慮している郡山市・須賀川市・会津若松市・喜多方市・会津坂下町・会津美里町等では5月以降一般品種・一括管理による飼料用米への転換が急速にすすみ、大幅な飼料用米の作付増となつた。
- 8月に実施した主要地域農業再生協議会との意見交換においては、営農計画書の回収率は80%程度にとどまるとともに、地域によっては飼料用米の複数年契約の比率が低く、一括管理の比率が高い地域もあることが明らかとなつた。また経営規模別の飼料用米への取り組み状況をみると、大規模層は高い比率で飼料用米に取り組んでいるものの、中間から小規模生産者の飼料用米の取り組み比率は低く、偏りが見られる結果。
- 一部では、大規模調製施設での飼料用米の受け入れが制限され、飼料用米の取り組み拡大の制約要因となつた地域もあり、生産から収穫・乾燥調製にかけて一貫した取り組み体制の構築が課題。
- また、水稻播種後の飼料用米への転換推進が主体となつたため、会津地区を中心として主食用米「天のつぶ」の比率が大きく減少し、販売戦略上課題を残す結果。

(このページは白紙です。)

IV. 令和4年産米の取り組みの基本的考え方

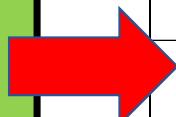
1. 情勢認識

- コロナ禍の影響はあるものの、人口減少による構造的な需要減少は今後も継続、抜本的な需給環境の改善のためには、令和4・5年産米においても全国的に生産削減の取り組みは必要な環境。
- 令和3年産米の需給環境は、令和3年産米の作柄公表と特別枠15万t公表による期待感から、相場は底値を確認し8,000円台の低価格帯の米は市場から消えつつある。しかしながら令和2年産米の在庫が大量にあるため、業務用を中心とした令和3年産米の本格使用は早くも令和4年6月以降にずれ込むことも想定。
- このような情勢のもと、市場は令和4年産米の生産規模、銘柄別需給動向に注目しており、令和4年産米においても、種子確保も含めて早い段階からの生産削減の取り組みを市場に発信していくことが必要となる。
- 今後令和4・5年産米においては、作柄等の影響はあるものの、米価は急速に上昇するということではなく、当面安定的に推移することを念頭に、円滑な流通の実現を目指し、少なくとも令和3年産米以上の米価下落を防ぐ視点で取り組みをすすめることが必要。
- 福島県における主食用米削減の規模感は、令和3年産米においては、需要量の減少・在庫率が全国で実質最も高かったことをふまえ、全国での主食用米の削減率を超える▲6%の生産数量の目安（面積）目標を設定、しかしながら▲1,000haの深堀りも実現したことから、令和4年産米においては全国平均の▲4%をベースに生産数量の目安（面積）を設定。
- また、結果として飼料用米中心の作付け転換となった経過をふまえ、現在の困難な状況を前向きにとらえ、中期的観点から飼料用米以外の加工用米・輸出用米等非主食用米への転換、麦・大豆・園芸作物等水稻以外への転換について、各地域農業再生協議会において具体的に検討をすすめ、新たな制度・品目として定着させ、将来の水田農業の姿を模索・構築することが必要。
- そのためには、改めて地域農業再生協議会を中心に、方針作成者・集荷業者と十分意見交換を行い、制度別・用途別・品種別の需要動向を早期に把握し、担い手確保・農地集積とも連動させ取り組みをすすめることが必要。

2. 基本的な考え方

- 「地域農業再生協議会」別の中期的な水田農業のあり方検討と連動した令和4年産米にかかる取り組み方針の検討を実施（「水田収益力強化ビジョン」の深堀り）
 - ・中期的制度別・用途別・銘柄別作付計画等の策定（「天のつぶ」種子は確保済み）
 - ・制度別・用途別10a当たり収入・生産コスト目標の設定（担い手層全算入生産費は100千円/10a程度）
- 県全体としての麦・大豆・高収益作物の中期的取り組み計画の策定・提示
- ナラシ対策・収入保険等のセーフティネットの積極活用（福島県加入状況：人数1割・面積5割程度）

- 令和3年産米の結果・課題を分析
- 令和4年産米に向け、主食用米だけではなく非主食用米、水稻以外への転換も含めた水田全体の中期的生産計画を策定
- 同時に10a当たり収入・生産コスト目標、品種別作付計画等も検討
- また、担い手・農地集積対策との連動も視野に検討



区分		令和3年実績	令和4年計画	令和〇年計画
米	主食用米			
	備蓄米			
	加工用米			
	新市場開拓米			
	WCS等			
	飼料用米			
	米粉用米			
	その他			
	非主食用米計			
	全水稻作付面積			
米以外	麦			
	大豆			
	高収益作物			
	地力増進作物			
	飼料用作物	飼料用トウモロコシ		
	その他			
	米以外計			
	畑地化			
	全水田面積			

単位：人・%・ha			
認定農業者数			
農地集積率			
ナラシ対策加入面積			
収入保険加入面積			

3. 制度別・用途別作付けの考え方

区分	需要動向	対応の考え方
主食用米	○需要の減少は継続	○需要に応じた生産削減の実施、事前契約の拡大 ○コシヒカリ比率の削減、天のつぶ等比率の拡大
備蓄米	○県別優先枠最終年	○優先枠+一般枠を令和3年産並みに確保
飼料用米	○需要はまだあるが国的基本計画を上回る可能性	○当面、需要に応じた生産推進の中心 ○複数年契約・区分管理比率の拡大による定着化促進 ○播種前までの取り組み展開の推進強化
加工用米	○コロナ渦により日本酒・加工米飯の需要減、販売価格も低下し、厳しい状況は継続	○「水田リノベーション事業」を活用し、MA米代替需要も含めて取り組みを拡大
輸出用米	○コロナ渦で令和2年産米が在庫発生、令和3年産米での生産量拡大は鈍化 ○一方商業輸出量全体としては増加傾向	○「水田リノベーション事業」を活用し、令和3年産米の2倍以上を目標に取り組みを拡大
麦・大豆	○自給率はまだ低い、拡大の余地あり	○中期的取り組み計画の策定・提示 ○実需者との協議をふまえ必要に応じた品種転換（麦）推進
高収益作物	○加工用野菜の自給率は20%程度	○令和3年度「水田農業高収益化推進計画」を策定中、特に基盤整備と連動した水田の畑地化を模索
飼料用トウモロコシ	○自給飼料の不足	○令和3年度143haの取り組み実績、関係者とも連携し、生産現場への周知徹底と拡大推進
米粉・WCS等	○需要の伸びは鈍化	○WCS・米粉等については現状維持を基本

4. 生産数量の目安（面積）・制度別・用途別作付計画

- 令和4年産主食用米生産量を675万トン、令和3年産生産量対比▲96%水準を前提に、福島県としても概ね▲2,100haの削減に取り組む。
- 非主食用米については、飼料用米を中心としつつ、加工用米・輸出用米等の拡大を目指す。
- 水稻以外への転換については麦・大豆を中心に600ha程度の拡大を目標に取り組む。
- 水稻以外への転換については特に飼料用トウモロコシ・地力増進作物の生産を新たな取り組みとして推進。

区分	数値	単位
令和4年産生産量	6,750,000	トン
生産量減少率	96.2910	%
令和3年産作付面積	54,700	ha
令和4年産作付面積	52,671	
差	▲ 2,029	

水稻以外品目	令和4年 増加計画	令和3年 実績
麦	40	273
大豆	100	711
食料作物	130	1,692
飼料用トウモロコシ	130	143
そば	180	1,794
なたね	5	51
高収益作物	55	1,093
野菜	55	894
その他	0	199
地力増進作物	90	0
畑地化	0	0
計	600	5,614

項目	年産	3年産		4年産		
	計画	実績	計画	3年実績差		
			①	②	③	④=③-②
主食用作付面積	55,700	54,700	52,600		▲ 2,100	
計画面積との差	0	▲ 1,000	0	1,000		
	SUM(①:⑥)	15,700	16,882	19,400	2,518	
非主食用米	①飼料用米	7,000	10,038	11,250	1,212	
	②備蓄米	5,600	5,335	5,300	▲ 35	
	③加工用米	1,000	397	1,000	603	
	④WCS	1,200	1,031	1,100	69	
	⑤輸出米	100	38	100	62	
	⑥その他	800	43	650	607	
	全水稻作付面積	71,400	71,600	72,000	400	

5. 目標

- 主食用米作付削減と単収確保により、更なる米価下落を防ぎ令和3年産以上の10a当たり収入を確保。
- 非主食用米については飼料用米以外への転換拡大により、中期的な水田フル活用の可能性を追求。
- 単収の確保のためには、飼料用米のみではなく、主食用米においても天のつぶ等への転換を促進。
- 主食用米においてバランスのとれた品種構成とするためにも、早期に制度別・用途別作付計画を策定し、それに対応する種子の手配を早期に開始。
- 安定的な価格による事前契約の拡大による「ふくしま米」需要の早期確保。
- ナラシ対策・収入保険等のセーフティネットへの加入拡大促進を同時に展開。

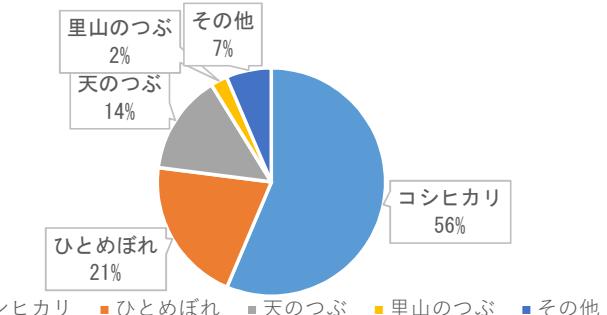
区分		単位	令和4年	令和3年	4年-3年
主食用米 (備蓄米含む)	販売価格	円/60kg	12,040	11,540	500
	流通経費	円/60kg	2,000	2,000	0
	手取り	円/60kg	10,040	9,540	500
	単収(農家使用ふるい目)	kg/10a	533	536	▲ 3
	面積	ha	57,900	60,035	▲ 2,135
	収入額	千円	51,640,238	51,164,228	476,010
非主食用米	手取り	円/10a	100,000	100,000	0
	面積	ha	14,100	11,565	2,535
	収入額	千円	14,100,000	11,565,000	2,535,000
合計	面積	ha	72,000	71,600	400
	手取り	千円	65,740,238	62,729,228	3,011,010
	単位面積当たり手取り	千円/10a	91	88	4

区分	単位		金額		
			3年産	2年産	3年-2年
全算入生産費	円/10a	A	120,376	120,376	0
物財費	円/10a	B	75,656	75,656	0
販売価格	円/60kg	C	11,540	13,540	▲ 2,000
流通経費	円/60kg	D	2,000	2,000	0
単収	kg/10a	E	536	544	▲ 8
生産者手取り	円/10a	F=(C-D)*E/60	85,224	104,629	▲ 19,405
「ナラシ」対策補てん	円/10a	G	20,746	4,577	16,169
収入計	円/10a	H=F+G	105,970	109,206	▲ 3,236
生産費との差	円/10a	I=H-A	▲ 14,406	▲ 11,170	▲ 3,236
物財費との差	円/10a	J=H-B	30,314	33,550	▲ 3,236

注) 令和2年産米単収は1.85mm以上(12月6日公表)で試算。

注) 令和3年産米単収は1.85mm以上(11月9日公表)で試算。

令和2年産主食用米品種別作付比率(想定)



6. 令和4年産米における取り組みのポイント

- 令和3年産米の円滑な販売のため、令和4年産米削減のメッセージが必要。
- 当面の対応はもちろん必要だが、中期的視点からの取り組みが重要。
- そのため、
 - ・先ず需給環境を生産者に迅速・正確に伝え、状況を理解して貰うことが大切。
 - ・また、需要と直接向き合っている方針作成者・集荷業者と十分意見交換すること必要。
- そのうえで、
 - ・種子手配の早い段階から、制度別・用途別・品種別作付計画に沿った取り組みの展開が必要。
 - ・麦・大豆等はゲタ等制度を活用し収量を確保すれば十分な所得が確保できることなどを丁寧に説明し計画的に取り組むことが大切。
 - ・飼料用米は、当面取り組みの中心にならざるを得ないが、年によって作付けが大きく変動することは避け、定着させることが必要。また、飼料用米の取り組みにあたっては、乾燥調製施設の活用法等についても事前の十分な対策が必要。
 - ・更には、中期的には、水田・地域を守るため、担い手確保・農地集積との関係も意識した取り組みが重要。

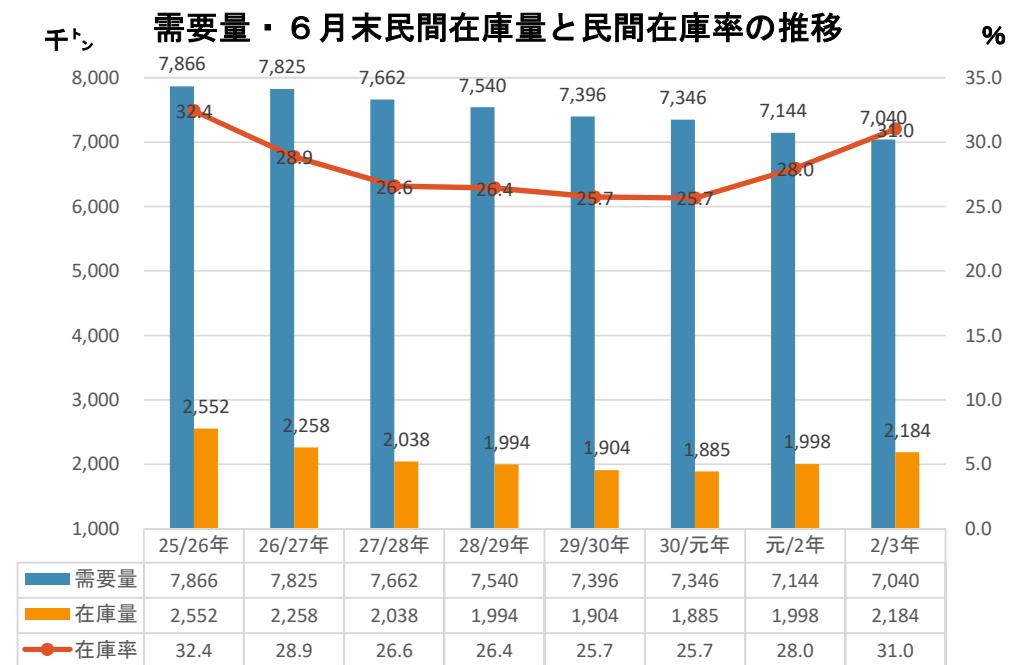
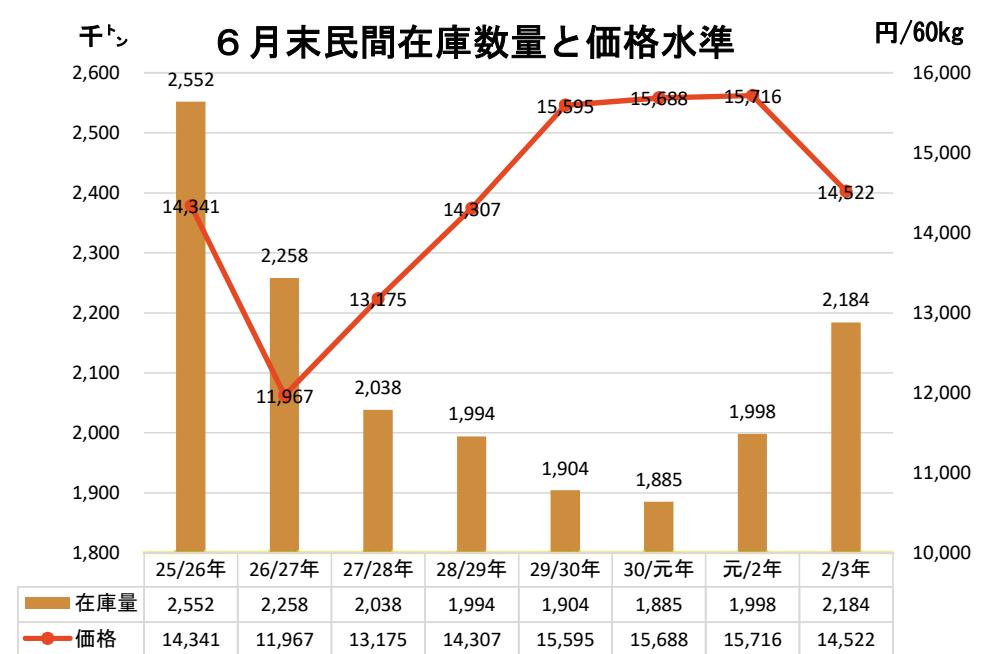
7. 今後の取り組みのすすめ方（予定）

時期	国	県・地域推進会議	内容等
令和3年 11月	○10/25現在作況等公表 ○食糧部会 ○令和3年度補正予算案 決定	○11/25地域農業再生協議 会説明会	○生産数量の目安 (面積) 規模提示 ○制度別・用途別生産の 考え方等
12月	○令和3年産生産量確定 ○令和4年度予算概算決定	○12/3県推進会議総会 ○12/13地域農業再生協議 会説明会	○生産数量の目安 (面積) 等決定
令和4年 1月	○産地交付金配分	○県推進会議総会 ○地域農業再生協議会説 明会	○産地交付金単価等決定
2月	○1月末作付意向公表 ○食糧部会 (需給見通し修正)	○個別推進開始	
3月		○播種前推進の山場	

參考資料

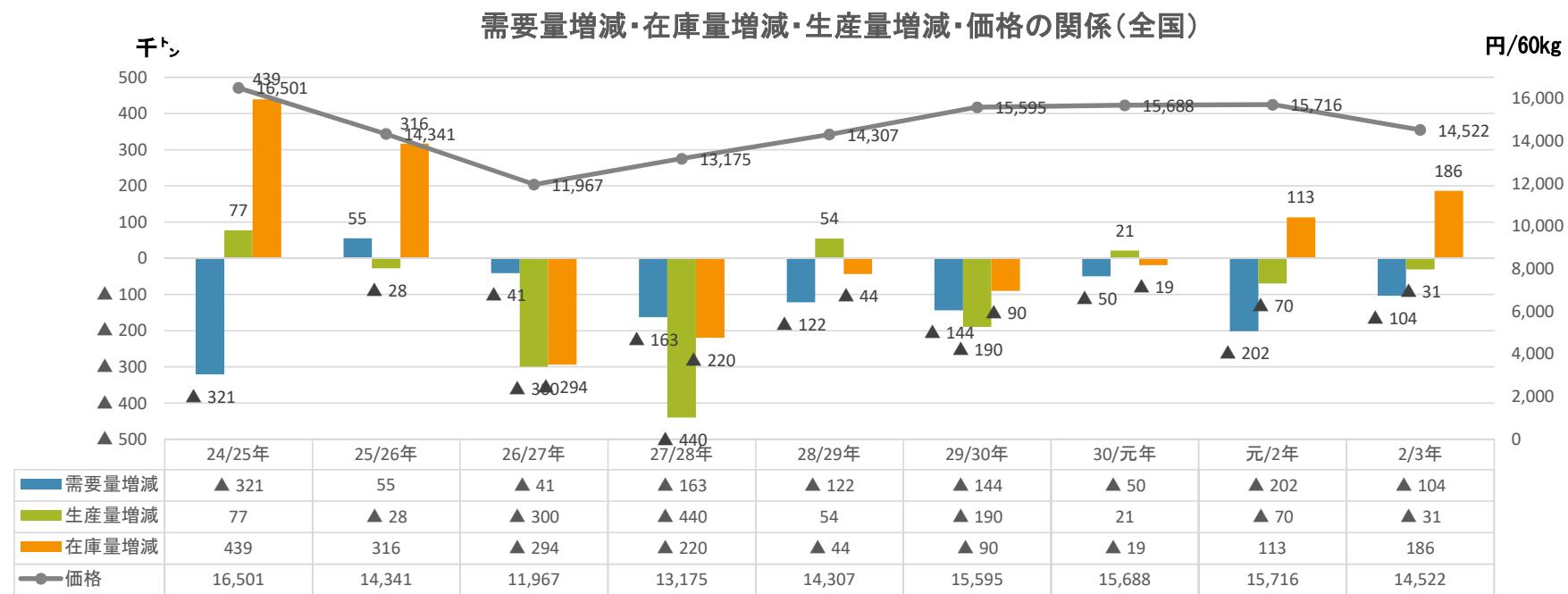
1. 民間在庫と価格水準との関係

- 民間在庫量と米価水準は密接に関係しており、現在は民間在庫が過大な需給緩和環境。
- 令和3年6月末民間在庫は、令和2年6月末と比較し19万トン程度増加。
- これは、令和元・2年産米と作付面積は2万ha程度の減少で作柄は平年並みとなったため、供給量は10万トン程度の減少にとどまり、需要量は人口減少・コロナ禍等の影響により2年間で31万トン程度減少したことが要因。
- また、需要量に対する6月末民間在庫数量の占める割合は、需要が減少しているため、近年最大の民間在庫量となった平成25/26年6月末の32%に近い31%水準まで増加。



2. 平成26年産米等の経過

- 東日本大震災で発生した仮需が24/25年に急激に縮小し、その規模は▲32万に達する結果。
このため平成25年6月末在庫は前年度から+44万トンも増加。
- 更に生産量の削減がほとんどなく、需要の増加も微々たるものであったため、令和26年6月末在庫は更に+32万トン増加し、2年間で民間在庫は+76万トンも増加。
- このため、平成25年産米を35万トンの政府古米と交換し市場隔離するとともに、平成26年産米で▲30万トン、平成27年産米で▲44万トンと実質3年間で▲100万トン超の削減の取り組みを実施。
この結果、米価水準は平成27年産米から徐々に上昇に転じ、回復。



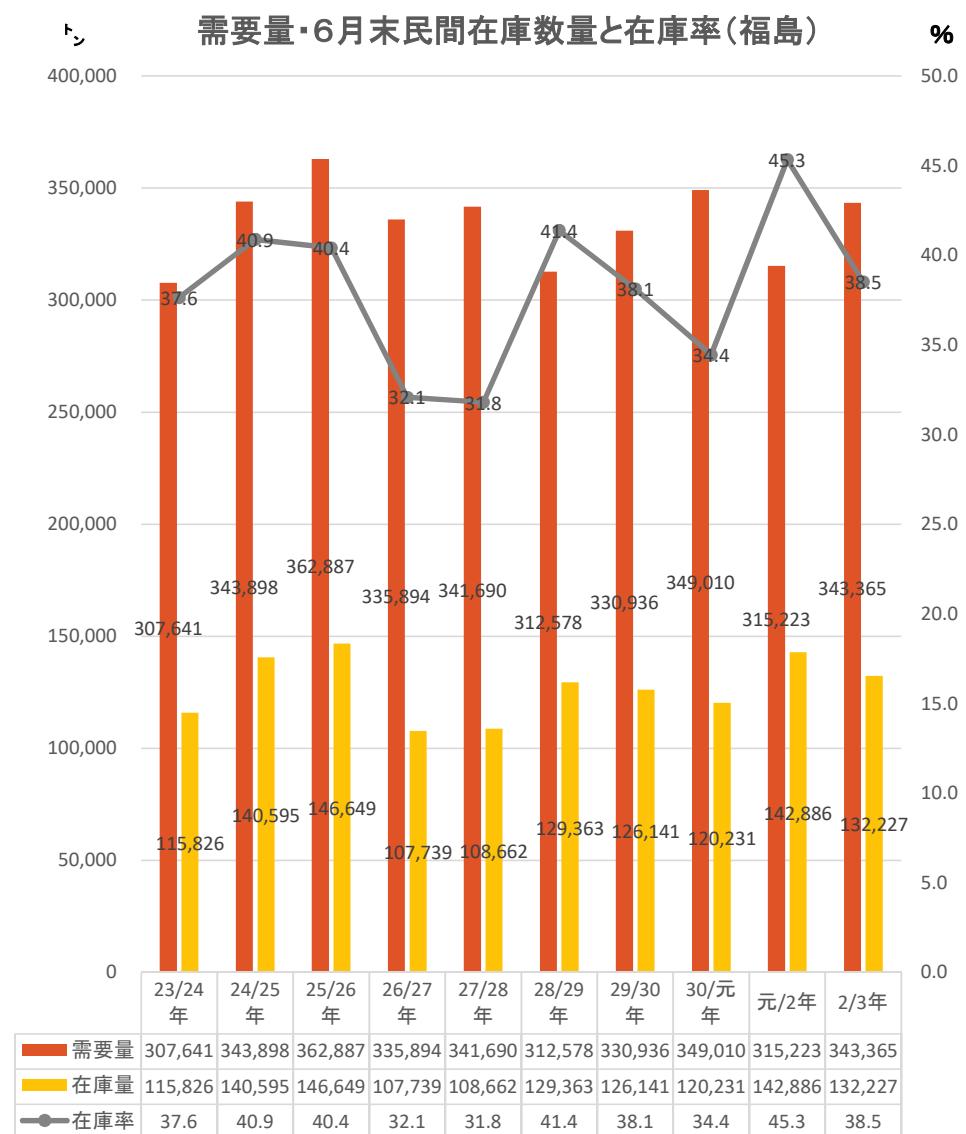
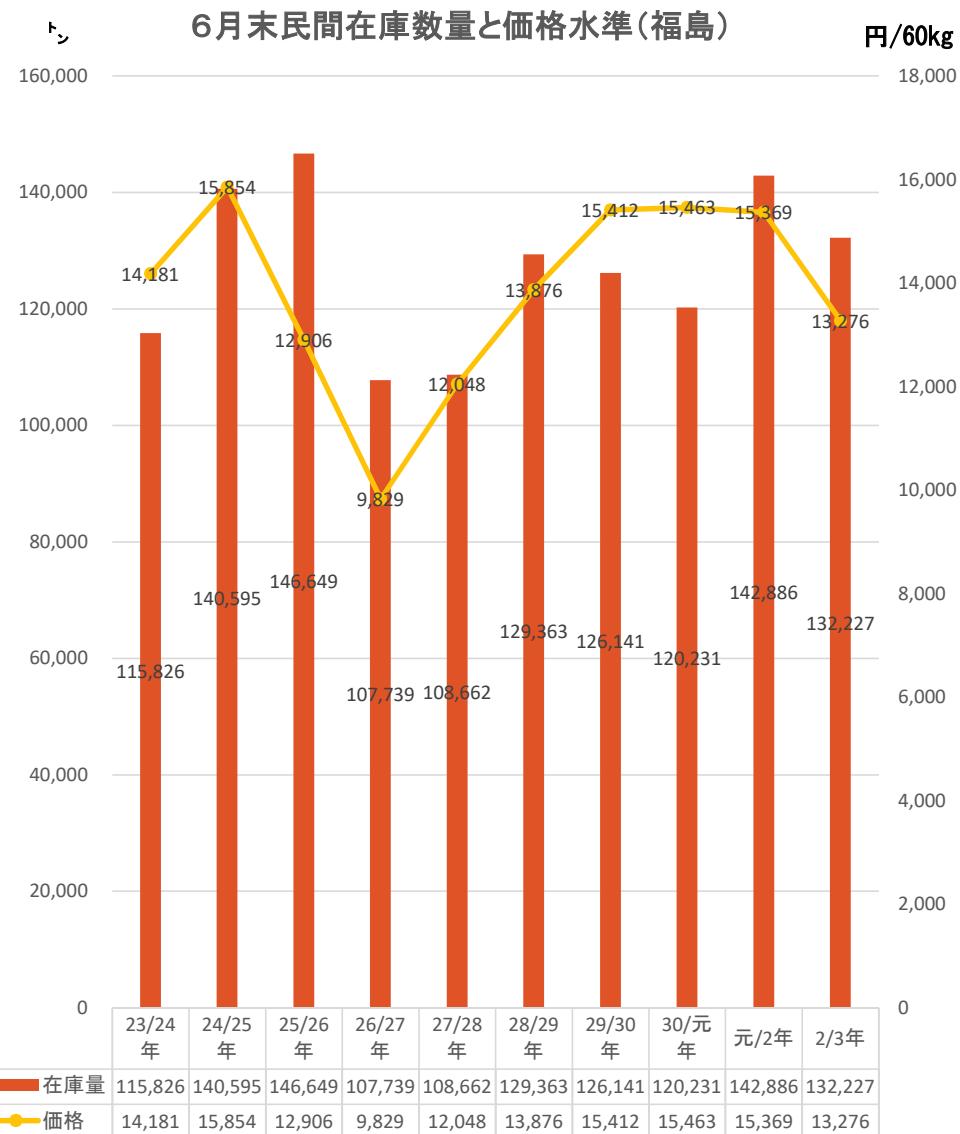
3. 福島県における取り組みの経緯等

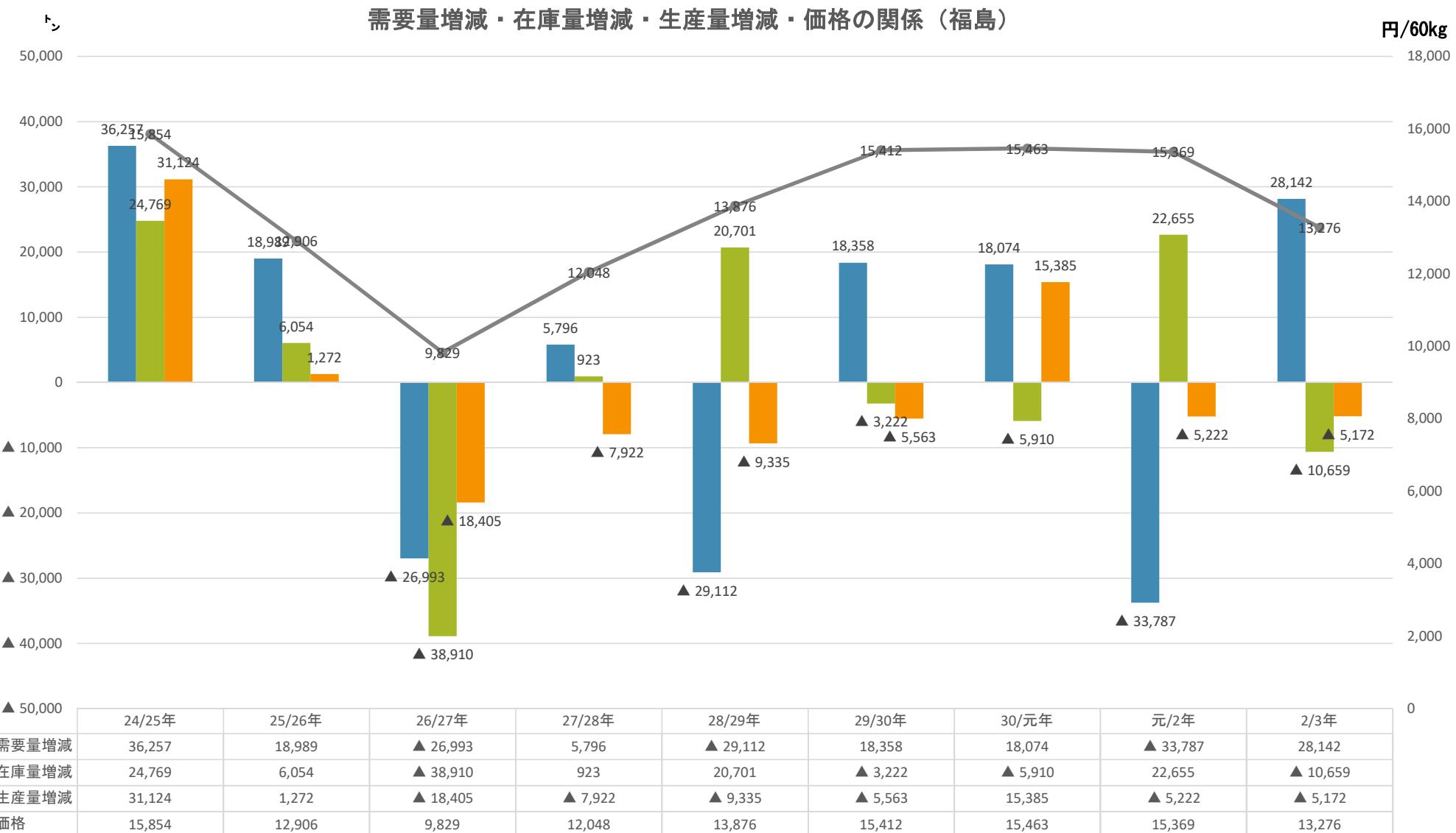
○福島県

単位:トン・円/60kg・%

年度	需要量	需要量増減	在庫量	在庫量増減	生産量	生産量増減	価格	在庫率
24/25年	343,898	36,257	140,595	24,769	367,668	31,124	15,854	40.9
25/26年	362,887	18,989	146,649	6,054	368,940	1,272	12,906	40.4
26/27年	335,894	▲ 26,993	107,739	▲ 38,910	350,535	▲ 18,405	9,829	32.1
27/28年	341,690	5,796	108,662	923	342,613	▲ 7,922	12,048	31.8
28/29年	312,578	▲ 29,112	129,363	20,701	333,278	▲ 9,335	13,876	41.4
29/30年	330,936	18,358	126,141	▲ 3,222	327,715	▲ 5,563	15,412	38.1
30/元年	349,010	18,074	120,231	▲ 5,910	343,100	15,385	15,463	34.4
元/2年	315,223	▲ 33,787	142,886	22,655	337,878	▲ 5,222	15,369	45.3
2/3年	343,365	28,142	132,227	▲ 10,659	332,706	▲ 5,172	13,276	38.5
3/4年					303,600	▲ 29,106		

注)価格は中通りコシヒカリの価格。





令和3年産飼料用米取組状況（階層別・県全体）

階層	農家戸数(a)	面積m ²	割合	1戸あたりの平均面積m ²
1ha未満	2,636	11,864,848	11.8%	4,501
1ha以上3ha未満	1,385	23,457,415	23.4%	16,937
3ha以上5ha未満	376	14,338,481	14.3%	38,134
5ha以上10ha未満	262	18,505,881	18.4%	70,633
10ha以上15ha未満	81	9,743,834	9.7%	120,294
15ha以上	91	22,472,089	22.4%	246,946
計	4,831	100,382,548	100.0%	20,779

(2015農林業センサス)

農業経営体数(b)	a/b
23,058	11.4%
22,116	6.3%
4,322	8.7%
2,318	11.3%
946	18.2%
52,760	9.2%

令和3年産飼料用米取組状況（階層別・中通り）

階層	農家戸数(a)	面積m ²	割合	1戸あたりの平均面積m ²
1ha未満	1,780	7,750,984	18.1%	4,354
1ha以上3ha未満	764	12,901,315	30.1%	16,887
3ha以上5ha未満	191	7,255,737	16.9%	37,988
5ha以上10ha未満	110	7,781,368	18.2%	70,740
10ha以上15ha未満	21	2,576,667	6.0%	122,698
15ha以上	22	4,595,338	10.7%	208,879
計	2,888	42,861,409	100.0%	14,841

(2015農林業センサス)

農業経営体数(b)	a/b
15,977	11.1%
14,054	5.4%
2,324	8.2%
1,148	9.6%
400	10.8%
33,903	8.5%

令和3年産飼料用米取組状況（階層別・浜通り）

階層	農家戸数(a)	面積m ²	割合	1戸あたりの平均面積m ²
1ha未満	470	2,465,857	6.0%	5,247
1ha以上3ha未満	338	5,903,003	14.3%	17,465
3ha以上5ha未満	110	4,279,737	10.4%	38,907
5ha以上10ha未満	104	7,437,625	18.0%	71,516
10ha以上15ha未満	41	4,950,785	12.0%	120,751
15ha以上	61	16,221,699	39.3%	265,929
計	1,124	41,258,706	100.0%	36,707

(2015農林業センサス)

農業経営体数(b)	a/b
3,412	13.8%
2,991	11.3%
434	25.3%
229	45.4%
169	60.4%
7,235	15.5%

令和3年産飼料用米取組状況（階層別・会津）

階層	農家戸数(a)	面積m ²	割合	1戸あたりの平均面積m ²
1ha未満	386	1,648,007	10.1%	4,269
1ha以上3ha未満	283	4,653,097	28.6%	16,442
3ha以上5ha未満	75	2,803,007	17.2%	37,373
5ha以上10ha未満	48	3,286,888	20.2%	68,477
10ha以上15ha未満	19	2,216,382	13.6%	116,652
15ha以上	8	1,655,052	10.2%	206,882
計	819	16,262,433	100.0%	19,856

(2015農林業センサス)

農業経営体数(b)	a/b
3,669	10.5%
5,071	5.6%
1,564	4.8%
941	5.1%
377	7.2%
11,622	7.0%

令和3年産飼料用米取組面積(品種別・管理方式別)

地域区分	飼料用米	主食用品種												多収品種,特認品種				一括管理計		区分管理計		
		一括管理			区分管理			一括管理			区分管理											
		(単位:ha)	(単位:ha)	%	(単位:ha)	(単位:ha)	%	(単位:ha)	(単位:ha)	%	(単位:ha)	(単位:ha)	%	(単位:ha)	(単位:ha)	%	(単位:ha)	(単位:ha)	%			
中通り 計		4,286	3,595	84	2,284	64		1,311	36		691	16		0	0		691	100		2,284	53	2,002 47
浜通り 計		4,126	2,827	69	342	12		2,484	88		1,299	31		0	0		1,299	100		342	8	3,784 92
会津 計		1,626	1,361	84	775	57		587	43		265	16		0	0		265	100		775	48	852 52
福島県 計		10,038	7,783	78	3,401	44		4,383	56		2,255	22		0	0		2,255	100		3,401	34	6,638 66

令和3年産飼料用米取組状況（単年契約・複数年契約別）

単位 : m²

作柄表示地帯	単年契約		複数年契約		計
		割合		割合	
中通り	4, 225, 049	9. 9%	38, 636, 360	90. 1%	42, 861, 409
浜通り	3, 078, 711	7. 5%	38, 179, 995	92. 5%	41, 258, 706
会津	2, 088, 471	12. 8%	14, 173, 962	87. 2%	16, 262, 433
福島県 計	9, 392, 231	9. 4%	90, 990, 317	90. 6%	100, 382, 548

添付資料

- 資料① 令和4年産米にかかる生産数量の目安（面積）設定の考え方（案）
- 資料② 令和4年産米制度別・用途別・銘柄別作付計画等（案）
- 資料③ 米価・生産コスト目標（案）
- 資料④ 令和4年度産地交付金取り扱いの考え方（案）
- 資料⑤ 加工用米・輸出用米、麦・大豆・高収益作物等推進の考え方（案）
- 資料⑥ （参考）令和4年産米の制度別・用途別手取試算